



1. 研究活動

【翻訳】			
<p>「音楽家への第一歩」 日本語版 入門コース第2巻B</p> <p>ジャン-ピエール・クーロ 著</p> <p>舟橋三十子訳</p>	<p>2011. 4</p>	<p>パリ・A.Leduc 社</p> <p>Editions Musicales A.Leduc</p> <p>175 Rue Saint-Honoré Paris FRANCE</p> <p>監修 細野孝興 (東京藝術大学名誉教授)</p>	<p>新しいソルフェージュの考え方フォルマシオン・ミュージカルの紹介を中心にしたテキスト。子供の歌、子守歌等、親しみやすい小品を対象にしている。</p> <p>第1課  ナチュラル  アクセント 変位記号</p> <p>第2課 属音</p>

			<p>第3課 完全5度</p> <p>第4課 3連符  Ma non troppo</p> <p>第5課 全ての音程の名称 ダ・カーボ (D.C.)</p> <p>第6課 リズムパターン </p> <p>第8課 終止形 前奏</p> <p>第10課 ファランドール</p>
【コンクール審査】			
第10回ローランドファンタスティック・ピアノコンクール 北海道地区 課題曲部門 第2次予選/自由曲部門 本線審査員	2011. 12. 11	北海道大麻公民館えぼあホール	第1次予選(メディア審査)に合格した参加者の、ステージ演奏を審査
第10回ローランドファンタスティック・ピアノコンクール 東北地区 課題曲部門 第2次予選/自由曲部門 本線審査員	2011. 12. 18	宮城県仙台市若林区文化センター	第1次予選(メディア審査)に合格した参加者の、ステージ演奏を審査
【雑誌記事連載】			
ピアノ音楽誌 「レッスンの友」12月号 第49巻 第12号 通巻579号 pp.83～87	2011. 12. 1	(株)レッスンの友社	「ブルクミュラー「25の練習曲」を弾きながら学ぶ 音楽の基礎」 連載第1回 第2番アラバスケ
ピアノ音楽誌 「レッスンの友」1月号 第50巻 第1号 通巻580号 pp.82～85	2012. 1. 1	(株)レッスンの友社	「ブルクミュラー「25の練習曲」を弾きながら学ぶ 音楽の基礎」 連載第2回 第5番無邪気
ピアノ音楽誌 「レッスンの友」2月号 第50巻 第2号 通巻581号 pp.82～85	2012. 2. 1	(株)レッスンの友社	「ブルクミュラー「25の練習曲」を弾きながら学ぶ 音楽の基礎」 連載第3回 第1番「素直な心」
ピアノ音楽誌 「レッスンの友」3月号 第50巻 第3号 通巻582号 pp.82～85	2012. 3. 1	(株)レッスンの友社	「ブルクミュラー「25の練習曲」を弾きながら学ぶ 音楽の基礎」 連載第4回 第3番「牧歌」

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 ■有 □無

授業科目 ソルフェージュ I、II	
◆前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
一般的な聴音、新曲だけでなく、分析、理論、移調、リズム、音程練習等を加えてアプローチしている。また、様々な時代や作曲家、国の名曲をテキストに用い、幅広い視点から音楽をとらえ、学生が何のためにソルフェージュを学ぶのか、その目的をはっきりさせて、授業を学ぶモチベーションを高めるようにしている。	フランスの教本（フォルマシオン・ミュージカル）の日本語版（拙訳）を用い、新しい考え方に基づいた方法を実施している。また教材として用いた作品のCD、DVDを使用し、譜面からだけでなく、視覚的・聴覚的な要素も視野にいった方法での楽曲へのアプローチを試みるようにしている。
授業科目 楽式論（楽曲分析を含む）	
◆前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
よく知られたピアノ作品から始まり、最終的には、古典派、ロマン派、近代の作品までのアナリゼを実施している。予習に重点を置き、自分の力で分析できるようにさせている。過去に学んだ和声学の知識を生かし、最終的にはポリフォニックな音楽にも踏み込んでアナリゼできるようにしている。	基本的な和声の復習から始まり、小品だけでなく、最終的には簡単な室内楽の楽曲の分析ができるように、パソコンのソフト（フィナーレ）で作成した独自の譜面を参考資料として用いるようにしている。またDVD等のメディアを用い、オリジナルの編成での楽曲にも親しむように工夫している。
授業科目 キーボード・ハーモニー	
◆前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
コードネームや和音記号を用いた伴奏付けや、旋律に合った対旋律（オブリガート）を付けるなど、音楽の教師を目指すに当たって、教育の現場で実際に役に立つ学習を行っている。よく知られた旋律に正しいハーモニーを付けるなど、和声学で学んだ机上の学問を実践で役立たせるように工夫している。	毎回の授業時に、CD,MD,DVD等の機器を使用して、1つの楽曲を様々な編成で演奏したものを模範として聞かせている。古今東西の名曲を教材として使用することは、幅広い知識を必要とされる音楽教育の面からも欠くべからざることなので、幅広いジャンルの曲を聞かせるように努めている。

3. 学会等および社会における主な活動

(社) 日本作曲家協議会	1978. 4～現在に至る	
ポピュラー音楽学会	2000. 4～現在に至る	
文化経済学会	2000. 4～現在に至る	
日本ソルフェージュ研究協議会	2009. 4～現在に至る	
日本音楽表現学会	2012. 6～現在に至る	